

国立国会図書館ビジョン 2021-2025

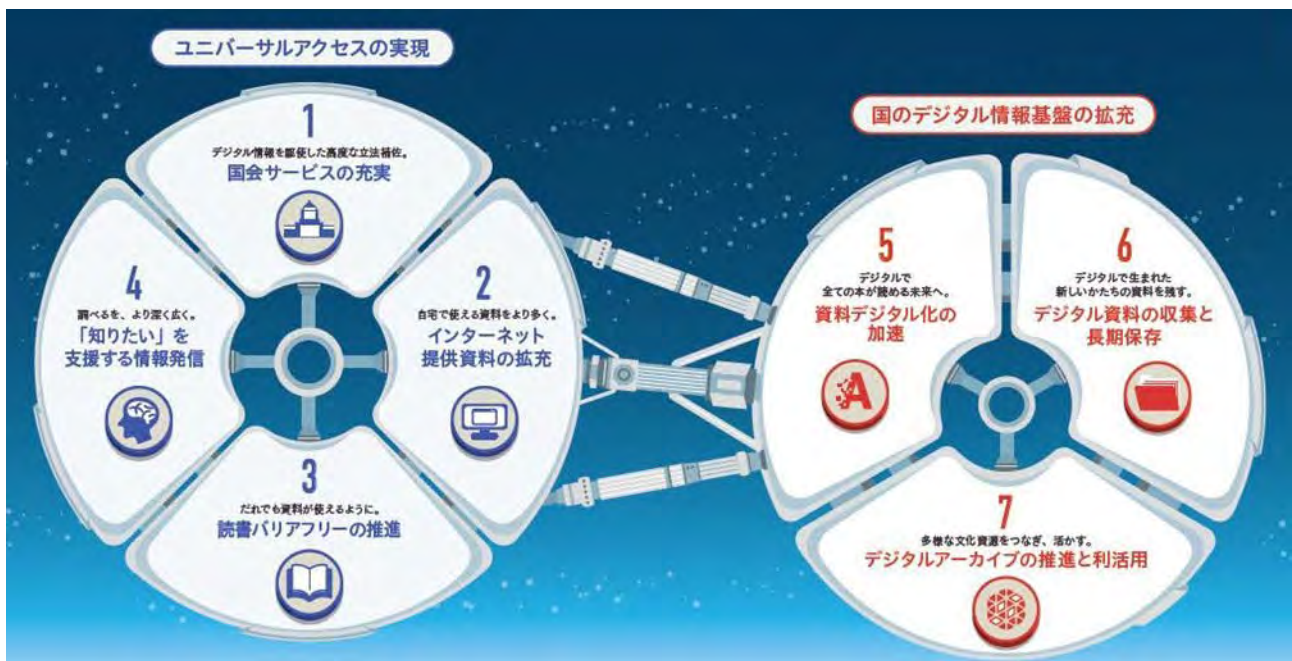
-国立国会図書館のデジタルシフト-

を策定しました

国立国会図書館は、今般、今後5年間の方針を定めた、「国立国会図書館ビジョン 2021-2025 -国立国会図書館のデジタルシフト-」を策定しました。7つの重点事業と、4つの基本的役割から成ります。

I 情報資源と知的資源をつなぐ7つの重点事業

情報技術によって私たちの社会活動やコミュニケーションのあり方が変容し、さらに新型コロナウイルスが大きな影響を及ぼす中で、社会のデジタルシフトが加速しようとしています。この状況を踏まえ、2021年度から2025年度までの5年間を「国立国会図書館のデジタルシフト」推進期間と位置付け、次の7つの事業に特に重点的に取り組みます。



1 国会サービスの充実

量的・質的に拡充したデジタル情報基盤と利便性を向上させた検索手段を用いて、さらに充実した国会サービスの提供を図ります。

2 インターネット提供資料の拡充

インターネットや身近な図書館で閲覧できるデジタル資料の拡充を図ります。そのための著作権処理や関係者との合意形成を進めます。

3 読書バリアフリーの推進

視覚障害等の理由で読書に困難がある利用者向けに、バリアフリー対応の資料の収集・検索・提供サービスと、利用しやすいテキストデータの製作支援を推進します。

4 「知りたい」を支援する情報発信

専門知識を活かして膨大な資料・情報をキュレーションし、効率的な調べ方のガイドや、知識を深めるための資料の紹介等、社会に役立つ情報を発信します。

5 資料デジタル化の加速

デジタルで全ての国内出版物が読める未来を目指し、この5年間で100万冊以上の所蔵資料をデジタル化します。テキスト化も行き、検索や機械学習に活かせる基盤データとします。

6 デジタル資料の収集と長期保存

有償の電子書籍・電子雑誌の制度収集を開始し、著作者や出版者の協力を得て、安定的収集を実現します。また、他機関のデジタル資料の収集・移管、再生困難なデジタル資料の形式変換等、多面的な取組によってデジタル資料の長期保存を目指します。

7 デジタルアーカイブの推進と利活用

図書館の領域を超えて幅広い分野のデジタルアーカイブを連携させる「ジャパンサーチ」を通じて、多様な情報・データがオープン化され、活用が促進される環境づくりを支えます。

Ⅱ 国立国会図書館の基本的役割

国立国会図書館は、国立国会図書館法前文に掲げられた使命を果たすため、納本制度に基づく資料・情報の収集を核として、国会、行政・司法各部門、国民に対するサービスを実施しています。7つの重点事業に取り組むとともに、以下の基本的役割を遂行します。

- 1 国会活動の補佐
- 2 資料・情報の収集・整理・保存
- 3 情報資源の利用提供
- 4 各種機関との連携協力

ビジョンの特設サイトはこちらです。

<https://vision2021.ndl.go.jp>

お問合せ先 総務部総務課広報係 03-3506-3307（直通）